



from Basel

世界の中央銀行が集う街：三国国境都市スイス・バーゼル

「Grüezi(グリューツィ)!」

スイスの街中で交わされるこの挨拶は、スイスドイツ語(スイスの方言)で「こんにちは」を意味します。スイスにはドイツ語・フランス語・イタリア語・ロマンシュ語の4つの公用語があり、地域によって話される言語が異なります。複数言語を使いこなす人が多く、多言語性の経済的価値や翻訳コストに関する研究も行われています。

スイス北部に位置するバーゼルは、スイス・ドイツ・フランスの三国国境に面した国際都市です。ドイツ語圏にありながら、「Merci vielmal(メルシー・フィルマール)」といったフランス語とドイツ語が組み合わされた感謝の表現が使われるなど、フランス文化の影響も感じられます。また、鉄道・道路・空路・河川で欧州各地とつながる交通の要衝でもあります。

このバーゼルには、「中央銀行の中央銀行」とも呼ばれる国際決済銀行(Bank for International Settlements, BIS)の本部があり、各国の中央銀行総裁による会合が隔月で開催されています。BISは創設から90年以上に

わたり中央銀行間の協力を促進し、対話の場の提供、調査研究、中央銀行向け銀行機能等を通じて、通貨・金融の安定を支援しています。近年は金融イノベーションにも注力しています。BIS以外にも、スイスにはその中立性と安定性、国際協力の歴史を背景に、多くの国際機関が集まっています。

観光や金融、時計産業、チョコレートなどで有名なスイスですが、化学・製薬も重要な基幹産業です。バーゼルはその中核拠点として、世界有数の化学・製薬企業やスタートアップなど数百社が集積し、ライフサイエンスの先端都市として発展しています。また、アートや建築の歴史と革新性も国際的に高く評価されています。

豊かな自然、多様な言語と文化、中立性、国際協調、産業技術や芸術が調和するバーゼルは、中央銀行間の対話と協力の場としても独自の存在感を放つ魅力溢れる街です。

(国際決済銀行、バーゼル)

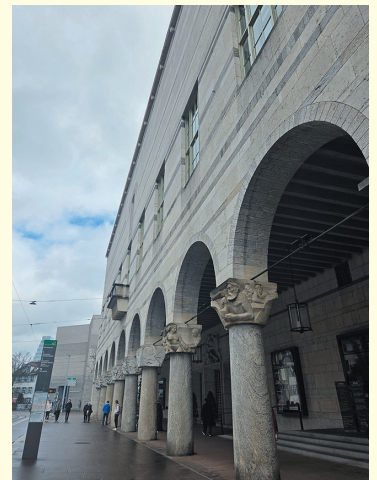
*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



BISの本部が入るタワー



色鮮やかな衣装と陽気な雰囲気が街を包むスイス最大のカーニバル(バーゼル・ファスナハト)



世界最古級のバーゼル美術館はアートの街の象徴の一つ